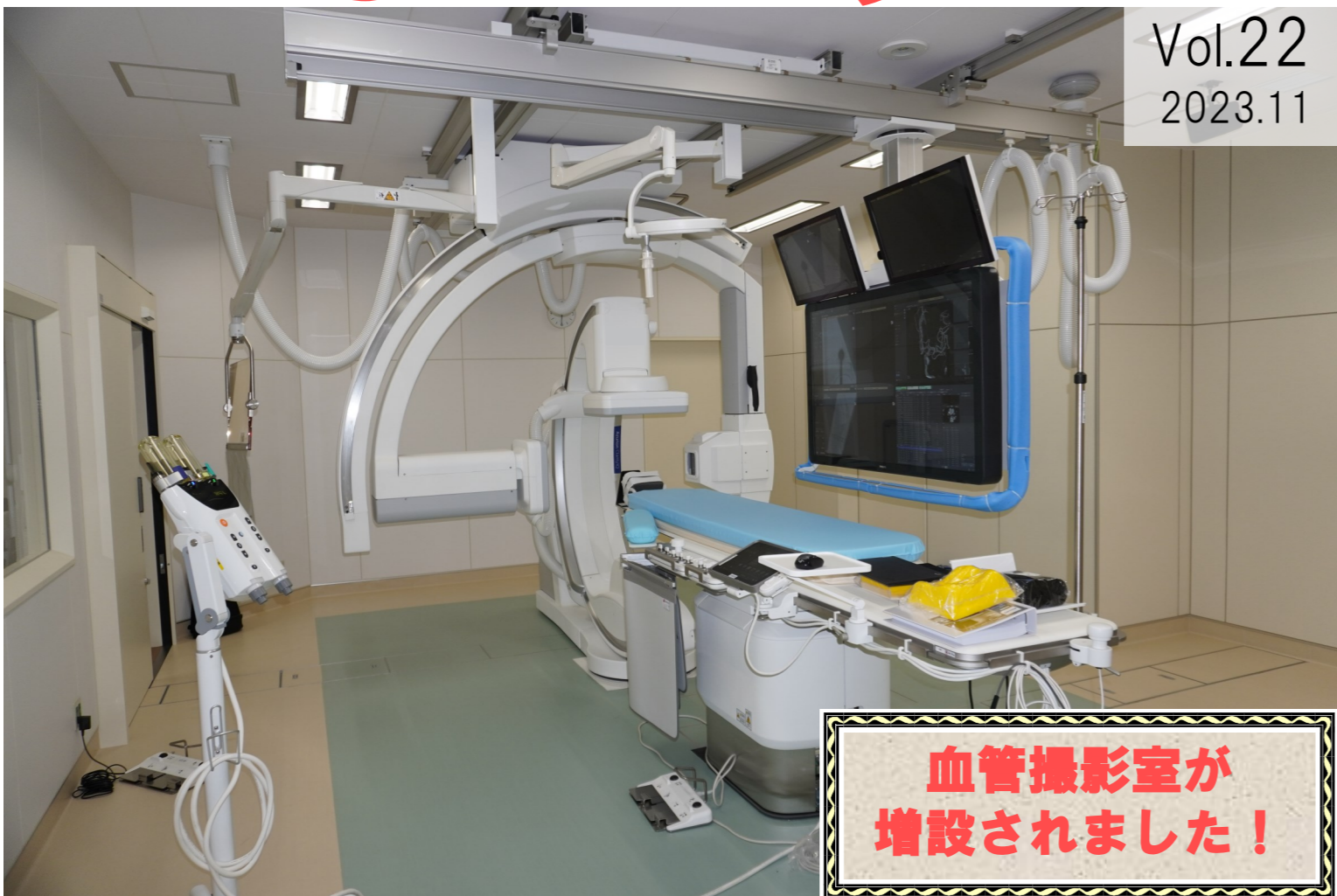


ピーなっつうしん

Vol.22
2023.11



**血管撮影室が
増設されました！**

知っておきたい医療の知識

「脳卒中・冠動脈症候群と

血管撮影室の増設の意義」

「新しいレーザー装置を導入しました！」



秦野市の特産品「ピーナッツ」の花言葉は、「仲良し・楽しみ」。生活に役立つ情報や当院の魅力などを提供し、地域の皆さんと病院とのコミュニケーションツールになる広報誌を目指します。

QRコードを読み取ると、当院ホームページへアクセスでき、最新のお知らせをご確認いただけます。



新しく導入された血管撮影装置の特徴を教えてください

まず血管撮影装置とは、血管の中にカテーテルという細い管状の医療器具を挿入し、そこから血管内に造影剤という物質を注入しながらX線で撮影することで血管を可視化する医療機器です。血管に対しての検査や治療に用いられます。

今回、新たに導入された血管撮影装置の特徴の1つは、通常撮影をするカメラは1つなのに対して、この装置は2つ備えているため、1度の造影剤の注入で同時に2方向から血管の撮影ができます。それにより検査、手術時間の短縮、造影剤の使用量の大幅な軽減、合併症のリスクの低下などが期待できます。

またもう1つの大きな特徴として撮影された画像が高解像度で鮮明であり、なおかつ被ばくの低減を両立させているという事が挙げられます。それにより微細な血管までを含む正確な血管像の把握や、血流の情報を得られます。これらの特徴により患者様には、より正確な診断と安全で体への負担の少ない検査や治療を提供できます。

医療機器の技術も日進月歩の中、技師の皆さんの努力にも頭が下がります

ありがとうございます。医師を中心に看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など多くの職種が協力し、患者様へ健康と質の高い医療を提供するために日々努力しています。

先程の装置の特徴にも入りますが、この装置はカテーテル治療には必要不可欠なイメージング技術である血管を3D再構成するものや、血管撮影装置でありながらCTの様な断層画像も撮影できるなど、医師の手技を効果的にサポートする様々な機能を備えています。これらの充実した機能を、医師が行う手技の流れを妨げないよう、100%患者様に提供できるように使いこなすのはとても大変であり、個々の勉強と努力が必要であると考えています。

血管撮影室が増えて、今後の放射線課はどうなりますか

新しい医療機器の導入は提供する医療の質が上がるなど、病院及び放射線課の未来に影響を与える重要な要素です。しかし我々、診療放射線技師は基本的にはやることは変わりません。

放射線の専門家として、新しい撮影技術や装置の適切な使用方法を継続的に学ぶ事は勿論のこと、患者様の被ばくを最小限に抑えつつ、高品質な画像を提供することに尽力し、近年増えつつある患者様の放射線への不安に対し丁寧に対応し、安心して検査を受けていただく事を心掛けていきます。

放射線課 第一放射線係長

田部井 誠

国内4台目の導入です！ 新しいレーザー装置を導入しました！

泌尿器科では、国内で4台目となるツリウムYAGレーザーを、尿路内視鏡手術で使用できるレーザーとしてこの度新規導入しました。

従来当院で使用していたホルミウムYAGレーザーに代わるもので、出力の設定幅も広いだけでなく、パルス波と連続波を使い分けことができ、尿路結石・前立腺肥大症・尿路腫瘍等に広く適応があります。

特に尿路結石治療ではメリットが大きく、結石を動かさずにその場で粉末状に破碎することができます。破片の回収が不要となるため、従来腎臓に背中から穴を開けて破片を回収する必要があったような症例も内視鏡1本で治療できるようになる可能性があります。また、組織の切開凝固能力も高く、前立腺肥大症や腎盂尿管腫瘍に対する適応も承認されております。

国内で導入できている施設は少なく、非常に先進的な機器となります。患者さんのメリットも非常に大きいものと考えます。他の施設で治療困難と判断されても、当院で治療可能な場合があります。お悩みの方は泌尿器科外来までご相談ください。

見た目はただのワゴンのように、現在(※)日本に4台しかない医療機器です。

保険適用での治療も可能です。詳細は診察の際にお尋ねください。

※2023年11月6日時点



泌尿器科副部長
かさはら りょう
笠原 亮

＜資格・所属学会＞

- 日本泌尿器科学会認定泌尿器科専門医
- 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会
- 泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 身体障害者福祉法第15条指定医
- (ぼうこう又は直腸機能障害)
- 緩和ケア研修会終了
- (横浜市立大学付属病院)
- Urolift Training Certification



第一脳神経外科部長

ひろた のぶお
廣田 暢夫

＜資格・所属学会＞
日本脳神経学会専門医・指導医
日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医
脳卒中の外科学会技術指導医
難病指定医
第9回JADECOC地域志向型指導医 修了



知っておきたい医療の知識

脳卒中・急性冠症候群と血管撮影室の増設の意義

当院に血管撮影室という部屋があることをご存知でしょうか。
11月より当院では、この血管撮影室を2部屋に増設して、運用をしています。
そこで今回は、院内で主にこの部屋を使用される「循環器科」「脳神経外科」の両部長、並びに放射線課にお話を伺いました。

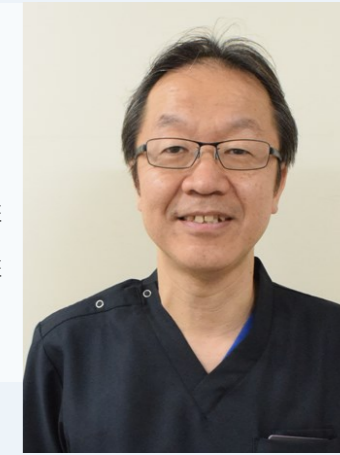


血管撮影装置を用いて治療を行う澤田医師(右)と廣田医師(左)



二方向から撮影された画像は大きなモニターに鮮明に描写されます。
鮮明な視野の確保は手技の精度と治療時間に直結し、患者さんの負担軽減へとつながります。

急性冠動脈症候群と脳卒中、いずれも発症から治療までの時間が、予後に対する大きな鍵となります。
今回の増設により、今まで以上に迅速良質な医療の提供が可能となります。



副院長 第一循環器科部長

さわだ れいみん
澤田 玲民

＜資格・所属学会＞
日本内科学会総合内科認定医・専門医・指導医
日本循環器学会専門医
日本血管インターベンション治療学会専門医
日本DMAT隊員
弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター

循環器科ではどのような対象疾患がありますか？

循環器臓器はポンプにあたる心臓と、血液を送る導管である血管に分かれます。

心臓の疾患としては心不全(弁膜症 心筋症 肺高血圧症 成人先天心等)、心内膜炎、不整脈(心房細動 洞不全症候群 房室ブロック等)、血管疾患としては、動脈は冠動脈硬化症(心筋梗塞 狭心症)、末梢動脈硬化症、静脈は下肢深部静脈血栓症、肺塞栓症などがあります。

また、心疾患に負荷のかかる睡眠時無呼吸症候群なども対象としています。

血管撮影装置が1台増えました

脳血管内治療のために血管撮影室増設で2カテ室となりましたが、当科でも恩恵を受けることがあります。

1室では同時に心・脳疾患を治療できずに総虚血時間の短縮が院内で担保できないケースが解消されます。

更に同時刻や連続で来院した心筋梗塞を並列で治療することも可能となり、患者の予後改善に寄与することが期待されます。

今後の血管内治療に対する先生の思いをお聞かせください。

急性冠動脈症候群は実地医家(かかりつけ医)の先生方が早急に診断いただき、一番近いカテーテル治療が可能な施設に迅速に搬送いただくことで総虚血時間短縮につながり、患者の生命予後、慢性期の心機能維持の向上、ひいては将来的な心不全予防効果が期待されます。

長年この治療をしてきた者として、今まで培ってきた技術を多くの市民の皆様に還元できればと思っていますので、宜しくお願いいたします。

脳神経外科ではどのような対象疾患がありますか？

出血性疾患に対しては、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤破裂に対するコイル塞栓術、また破裂していない脳動脈瘤に対するステント留置による治療があります。また脳出血を起こす脳動静脈奇形や脳動静脈ろうに対する液体塞栓物質による塞栓術もカテーテル治療にて行います。

これに対し血管閉塞に対して緊急で行う血栓回収術、また血管狭窄に対するステント留置術などもあり治療は多岐に渡ります。

血管撮影装置が1台増えました

緊急カテーテル治療というと循環器内科、脳神経外科が多くあります。

今まではどちらか一方が治療中の場合、待機しなくてはならず速やかな治療ができないことも時折ありましたが、血管撮影室増設により同時に緊急カテーテル治療ができるようになりました。

今後の血管内治療に対する先生の思いをお聞かせください。

実は今まで使っていた血管撮影装置は放射線が一方向からしか出ない機種であり、精密さが要求される脳神経外科用としては機能が十分とは言えない一面がありました。今回導入された血管撮影装置は同時に2方向から放射線が出るもので、さらに最新のものがフルオプションの機械であり、より複雑な治療を安全に行えるようになります。

今まで以上に多くの患者さんをより確実に安全に治療できることが一番期待できる点と考えています。